

事例5 「地理」での学びを関連付けた授業

科目「公共」
主として政治に関わる事項

テーマ	国際社会における多文化共生について考えよう
単元等	国際社会の課題と日本の役割
ねらい	● 地理的資料を活用し、持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割について多面的・多角的に考察する活動を通して、自他の文化などを尊重する相互理解と寛容の態度を養うとともに、国際社会が抱える様々な課題について理解する。
概要	● 現代の国際社会とその諸課題について、中学校社会科地理的分野及び高等学校地理における学習内容を関連付けて考察する。サッカーワールドカップにおけるシーンを写した写真や関連する各国の資料等を読み取り、持続可能な国際社会の在り方や自らが果たす役割についてグループで協議し、まとめた内容を発表する。
使用する教具等	1人1台端末、電子黒板、関連資料、ワークシート

● 指導者 ● 生徒

学習の流れ	導入	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【問い】・現代の国際社会とその課題にはどのような特徴が見られるだろうか。 ● サッカーワールドカップのシーンを写した写真を生徒に提示する。 【写真の例】多様な人種の選手が写っている写真、イラン代表の国家斉唱の様子を写した写真、口を手で覆うドイツ代表選手の集合写真 等
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 写真や関連資料を基に国際社会における諸課題について考察、構想する。 ● 写真を見て気付いたことを各自発表する。 ● 提示した写真に関連する各国（カタール、イラン、ドイツ等）に関して地理での学習内容をまとめた資料を配布する。 ● 資料を手掛かりに次の各問いについて各自で考察、構想した内容をワークシートに記述する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Q1. 今回のサッカーワールドカップで論争となっている人権・社会問題には、どのようなものがあるか。資料を参考にまとめてみよう。</p> <p>Q2. 移民はなぜヨーロッパに流入するのか、なぜドイツは移民に寛容な政策をとってきたのか、資料を参考に、わからないことは調べてまとめよう。</p> <p>Q3. 多様な背景や信仰を持つ人々が平和に共存していくためにはどのようなことが必要だと考えるか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 4名程度のグループをつくり、Q1、Q2についてグループ内で各自の意見を共有した上で、Q3についてグループで協議し意見をまとめて発表する。
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自の意見を Google フォームで提出させ、全体で共有する。

☑ 授業のポイント

「公共」国際社会に関する学習において、中学校社会科地理的分野や高等学校地理での学習とのつながりを意識した課題解決型学習をデザインする。

教科等横断的な学習により、広い視野から課題を追究することで、各教科・科目で習得した基礎的な知識の定着を図る。また、それらの知識を相互に関連付けて考察、構想する学習を通して、「生きて働く知識」を習得する。

〈資料の例(一部)〉

サッカーワールドカップから見る民族・文化の問題

○カタールとはどんな国？

カタールは、ペルシャ湾に面した半島の国で、面積は日本の秋田県より少し狭く、人口もおよそ290万人と、とても小さな国です。雨が非常に少なく、国土の大半が砂漠で、夏場の気温は40度を上回るため、今回のワールドカップは、恒例の6月を避け、11月からの開催となりました。豊富な天然ガスや石油の資源に恵まれ、この30年ほどで、目覚ましい経済発展を遂げました。アラブの王族であるサーニ家が支配し、イギリスの保護領となった後、およそ50年前の1971年に独立しました。現在42歳のタミム首長が、すべての権限を握っています。イスラム教スンニ派の教えが国民に浸透し、政治、文化、社会に深く根ざっています。たとえば、お酒を飲むことは固く禁止されていますし、女性は、髪の毛や身体のラインを衣服やベールで隠さなければなりません。そして、南アジアやアフリカなどから、全人口の9割にも及ぶ大勢の出稼ぎ労働者を受け入れています。

